

# 階高の高い茅葺中2階を有する 有明海削節漁家の復原に関する研究

—佐賀県鹿島市の旧荒木家住宅を対象に—

森永 一男<sup>1</sup>・三島 伸雄<sup>2</sup>・瀧上 貴由樹<sup>3</sup>

## 1. はじめに

### 1.1 研究の目的

佐賀県鹿島市の浜庄津町浜金屋町重要伝統的建造物群保存地区（以下、庄金地区）は浜川の河口に面した在郷町で、有明海沿岸に面する有数の漁村であり、後に長崎街道の宿町としても栄えた。

有明海随一の網漁業を背景に大正時代、舟津地区の漁業戸数は約170戸確認されている<sup>1)</sup>。しかし、転居や新築建替、増改築により、現存する建物や関連資料もなくなりつつある（図-1、図-2）。

本研究では、庄金地区の浜川沿い（字名・南舟津）に建つ旧荒木家住宅の復元的考察を行い、その特質を明らかにすることを目的とする。

### 1.2 調査対象地

肥前浜宿は、浜川の河口につくられた在郷町で、少なくとも中世の室町時代には町として成立していたと考えられる。

本研究で対象とする旧荒木家住宅は、有明海で漁を行いつつ削節加工業を家内で営んでいた漁家（有明海削節漁家）と考えられる。肥前浜宿内にあり、南舟津の浜川沿いに北面して建つ。建物西側に茅葺三軒の町家（旧池田家、旧中島家、旧中村家）が防災広場を挟んで軒を連ね、建物北側と南側には小路が通っている。水路の水源は浜川からの支流と庄金地区北部の多良岳山系経ヶ岳からの源流による伏流水からなり、潤沢で清涼な水は水田だけでなく酒造りにも利用されている。その支流の一部に水路は通っており、旧荒木家住宅南側に幅1m程度路地と平行に現在も流れている。

### 1.3 研究方法

旧荒木家住宅の痕跡調査を行い、前建物所有者であった荒木氏へのヒアリング、家屋台帳の確認、地区内類例調査などを踏まえて復原図を作成し、その空間的特質を考察する。痕跡調査は、2017年4月～11月の解体前調査（図-3）、2018年4



図-1 昭和35年浜川風景<sup>2)</sup>



図-2 浜川河口の現状



図-3 解体前旧荒木家住宅



図-4 解体後旧荒木家住宅

表-1 全部事項証明書 建物 記載事項

| 建 物 |                         |                      |                                   |
|-----|-------------------------|----------------------|-----------------------------------|
| 種類  | 構 造                     | 床面積 m <sup>2</sup>   | 原因及びその日付                          |
| 居室  | 木造草葺平屋建                 | 59.50                |                                   |
|     | 木造亜鉛メッキ<br>銅板・瓦葺2階<br>建 | 1階 77.38<br>2階 33.87 | 昭和15年月日不詳変<br>更、増築（平成27年<br>7月3日） |

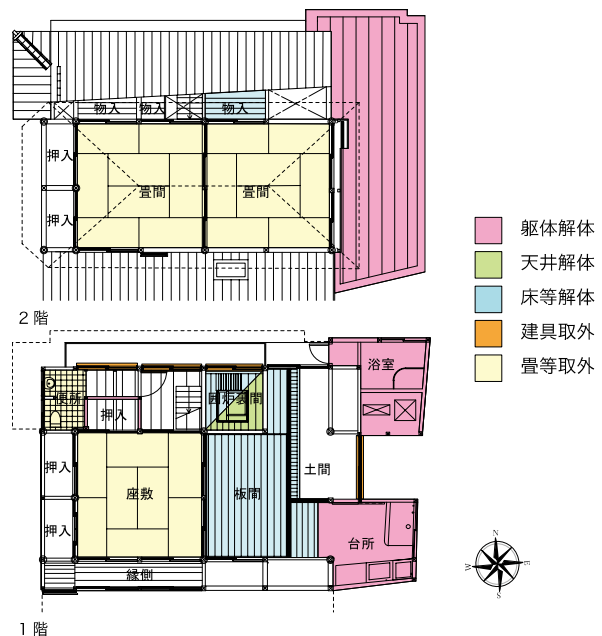


図-5 旧荒木家解体前平面図

1 佐賀大学大学院工学系研究科博士前期課程  
2 佐賀大学理工学部 教授・博士（工学）  
3 佐賀大学理工学部 助教・修士（工学）





### 3. 旧荒木家住宅解体後の部材加工，風食等からみた増改築の変遷と復原

#### 3.1 構造材加工跡，小舞跡，部材風食等の調査

痕跡図作成（図-14）のための加工跡，小舞跡，部材風食等の調査を行なった。小舞跡の部材としては，縁側南側の床束（図-15），座敷北側の柱，北側窓の柱（図-16），東側外部に面した柱（図-17）に確認された。風食跡は縁側柱に2箇所見られた。和釘は2階床板，出窓戸袋上部，物入内部の柱と横架材の仕口付近，出窓直下の垂木掛跡（図-18），南側板戸の一筋敷居（図-19），1階袖壁跡で確認できた。土壁は建物外周部はほぼ残っており，土壁跡は便所東側の床下と南側外壁の2箇所にある。南側外壁の延長線上（図-20）と建物北西部床下には礎石があり，柱が立っていたと推測される。

#### 3.2 旧荒木家の復原図作成

痕跡図を踏まえ江戸末期（図-21），明治中期（図-22），昭和15年以降の復原図を作成した。江戸末期は，桁行5間梁間3.5間，土間をカギ型に回した一列二間取りで，土間側に板間を有する。

縁側西側部は軒桁が継いであり，柱にも風食跡と小舞跡が見られ後補だと考えられる（図-23）。2階は，厨子として利用されていたが，昭和15年以降に畳間に変更された（図-24）。窓台に縦格子の痕跡が残っており明治中期に壁は無双窓に変更されたと考えられる（図-25）。また，江戸末期の北側と東側の大戸は，明治中期になり出入りが楽になるよう2枚引板戸に変更されたと推測される（図-26）。建物北西部の階段北側に2箇所引違い窓があるが，柱に小舞跡が見られ江戸末期は壁であった可能性が高い。荒木氏とのヒアリングにより昭和15年以降に，1階囲炉裏間南側の板間は4枚の畳が敷いてあったことが確認できた。

### 4. 復原断面図から見た2階内部空間の特徴

旧荒木家住宅の2階空間においては，屋根裏を含めた室高が高く雨戸も設置され，一見，改築されているように思われる。しかし，1階から通し柱が通り，雨戸や2階床板に和釘が用いられている。また，肥前浜宿内の江戸期建物にも室高は低い雨戸を有するものがある。調査段階での痕跡および経年感からも江戸末期から明治初期と推定される。

江戸末期の峰松家の生業はまだ定かではないが，家伝より漁家であったことは明らかである。室町



図-15 縁側床束小舞跡

図-16 北側窓小舞跡



図-17 東側外部柱小舞跡

図-18 垂木掛和釘跡



図-19 一筋敷居和釘跡

図-20 南側外壁礎石跡

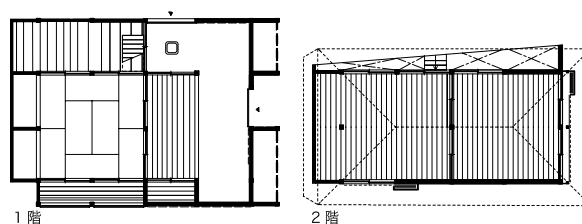


図-21 江戸末期復原平面図

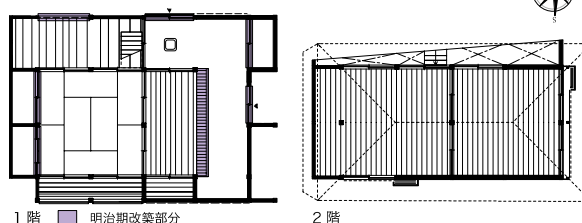


図-22 明治中期復原平面図



図-23 台持継手

図-24 2階板間



図-25 無双窓加工跡

図-26 敷居跡

時代より全国的に台所で削節製造があったこと、明治30年代より峰松家を含む南舟津地区で削節共同製造をしていたことから、同家は漁業の傍ら台所で削節製造していたと考えられる。

削節製造工程<sup>3)</sup>と照らし合わせ旧荒木家の空間を復原断面図を用いて推測すると、1階では削節の原料であるイワシやサバを南側水路で洗浄し囲炉裏間で水煮を行う(図-27)。2階は、削節を乾燥させる一時保管場所や削り加工する作業室としての機能を有した作業場兼倉庫とし、削節を囲炉裏で水煮・蒸煮する際の煙を排気しやすいように2階窓を大きく取り階高を高くしたと推測できる(図-28)。

薬の行商を行うようになった昭和15年頃以降、1階に風呂・台所などのコンクリート部分、2階の居室化など、居住機能を重視するようになり、住空間を変化させた他、柱間装置も大幅に入れ替えるなど、削節も営んでいたと推定される伝統的建造物としての価値を損なう工事が行われた。

しかしながら、建築当初の痕跡のほとんどはよく残されており、網漁・削節加工業という生業を営んでいた当時の姿がよく残っている。

## 5. まとめ

解体前・部分解体時の痕跡調査やヒアリングをもとに経年劣化を推察し、増改築の年代を3つ(江戸末期、明治中期、昭和15年以降)に分け、痕跡図の作成から復原図作成を行なった。作成後、家屋台帳や肥前浜宿内の類例建物、文献注1)などを参考に建築規模や室高、柱間装置などを部分的に比較検討した。有明海削節漁家である旧荒木家住宅は、生業の特異性から肥前浜宿内にある他の漁家住宅とは異なる建築であり、階高の高い茅葺中2階を有する極めて稀有な建物であると考えられる。

本研究を進めるにあたり、資料提供や助言等を頂いた鹿島市役所建設環境部都市建設課をはじめ佐賀県有明海漁業協同組合鹿島市支所七浦事業所に感謝する。また、旧荒木家住宅に以前在住されていた荒木京子氏からは昭和時代の状況を聞くことができた。趣旨を理解し快く協力していただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

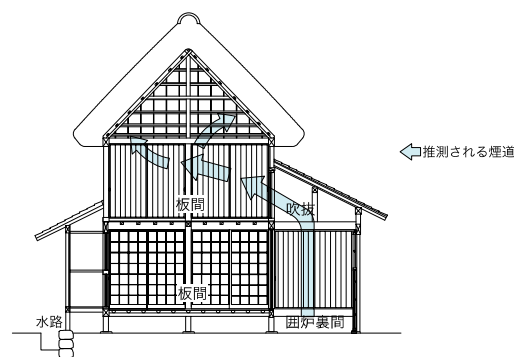


図-27 江戸末期妻側復原断面図

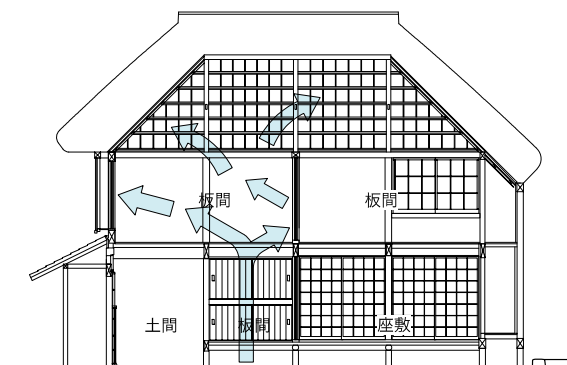


図-28 江戸末期平側復原断面図

## 注

注1)「佐賀県の民俗(下巻)」<sup>4)</sup>では、浜町漁家住宅の特徴として、浜町における漁家住宅の形式を記している。平屋建て、屋根は寄棟造の草葺であり、壁は荒壁という建物が多数を占めている。敷地は狭く作業所や倉庫などの付属建物はない。家の坪数は約10坪(約40㎡)から15坪(約60㎡)程度が多く庇や下屋もつかず便所は母屋から下屋を下ろした簡素なものが多い。道路に面した間口は狭く、奥行きは比較的長い。片側に土間(ニワ)があり、1列3間取の部屋が特徴となっている。天井は竹編や板を並べて仕上げたものが多い。厨子として燃料の薪木を保管するために利用されていた。風呂のある家は5~6軒しかなく木風呂であった。囲炉裏(ゆるい)は三尺平方(300mm×300mm)程度の大きさと奥の部屋に設けられており、板間となっているものが多い。

## 参考文献

- 1) 峰松正輝：肥前國藤津郡濱宿界隈の歴史 2007.8.16 p.92
- 2) 迎昭典、樋渡敏：武雄・鹿島・杵島・藤津の100年 株式会社郷土出版社 2003.2.5
- 3) 益子四郎：削り節について 調理科学研究会 1975.2.20
- 4) 佐賀県教育委員会：佐賀県の民俗(下巻) 1974.7.30 pp.272-274